

第5回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録(案)

会議名	第5回板橋区ボランティア活動推進協議会
開催日時	令和5年5月23日(火) 午後2時から午後3時40分まで
開催場所	板橋区立グリーンホール 703 会議室
出席者	<p>[委員]16人(敬称略) 佐藤陽(会長)、鈴木織恵、長澤重隆、松村良子、田口晋、石川隆彦、関根正孝、沼和子、藤田保代、矢野由加、馬場充好、平野江里子、増田百合、河毛哲郎、前田康夫、林栄喜 (欠席:2人)</p> <p>[オブザーバー] いたばし総合ボランティアセンター所長</p> <p>[事務局] 地域振興課長、地域振興課地域振興係職員</p>
会議の公開 (傍聴)	公開
傍聴者数	1人
議題	<p>1 開会 2 議題 (1) 第5回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方 (2) 第3・4回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果 (3) ビジョン骨子(案)について 3 閉会</p>
配付資料	<p>資料5-1 第5回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方 資料5-2 第3・4回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果 資料5-3 ビジョン骨子(案) 資料5-4 第4回板橋区ボランティア活動推進協議会 要点記録 資料5-5 第3回ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録 資料5-6 第4回ボランティア活動推進協議会専門部会 要点記録</p>
会長	<p>1 開会 それでは、第5回ボランティア活動推進協議会の開催をさせていただきたいと思えます。それではまず事務局の方から出席状況の確認をお願いいたします。</p>
事務局	<p>出席状況等の事務連絡でございますが、本日の会議でもまず、会議録を作成する関係から議事の内容を録音させていただきますのでご了承をお願いします。本日も欠席のご連絡をいただいておりますが、小池委員と大塚委員がご都合によりご欠席ということで、事前にご連絡をいただいております。またオンラインでの参加で、平野委員がご参加をいただいておりますので、どうぞよろしく願いいたします。傍聴の関係でございますが、本日は1名の方が傍聴を希望されております。本日の委員ですが、18名中15名、今現時点で参加されておりますので、過半数を満たしておりますので、本協議会は正式に成立をしております。それでは議事進行、佐藤会長よろしく願いいたします。</p>

会 長	はい。それではまず初めに、これから議事を進めていくにあたって、資料の確認を事務局の方からお願いいたします。
事 務 局	資料番号5-1となります、第5回ボランティア活動推進協議会の検討の進め方。5-2が、第3回第4回のボランティア活動推進協議会専門部会の検討結果。5-3でございますがこちらがビジョン骨子案について。5-4、第4回板橋区ボランティア活動推進協議会の要点記録。5-5が第3回、5-6が第4回、それぞれボランティア活動推進協議会専門部会の要点記録でございます。資料の不足等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次第に沿って、議事運営を佐藤会長にお願いいたします。
	<p>2 議題</p> <p>(1) 第5回ボランティア活動推進協議会 検討の進め方</p>
会 長	ボランティア活動推進協議会検討の進め方に入っていきたいと思います。それでは事務局の方から説明のほうお願いいたします。
事 務 局	(事務局から資料5-1、5-4、5-5、5-6について説明)
会 長	専門部会の委員の皆様、ご尽力いただきましてありがとうございます。そうした内容の確認をしながら、今事務局の方から説明があったこの進め方に従って、本日これから検討していきたいと思います。それでは皆さんのご意見等も後程お聞きしながら取りまとめていきたいと思っておりますが、(2)の第3、第4回ボランティア活動推進協議会専門部会での検討結果を踏まえて、その内容についてまず事務局の方から説明をお願いいたします。
事 務 局	<p>(2) 第3・4回ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果</p> <p>(事務局から資料5-2について説明)</p>
会 長	はい。ありがとうございました。今資料5-2を中心に専門部会の検討結果をご報告いただきました。この協議会が始まって当初からプラットフォームとは何なのか皆さんと確認をしながら、そこを本当に丁寧に専門部会でもんでいただいて、今の整理に至っているところ、それぞれの皆さんがご尽力いただいたこと、素晴らしいなど改めて感じております。まずは部会長の方から少し補足がありましたらお願いします。
部 会 長	<p>(部会長意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの単純に人と人とか物理的に出会って何かをしていくということではなく、システムやプラットフォームという新しい機能を導入しながら、多くの広がりを持っていきたいと模索して検討してきた。 ・事例もたくさん出していただき、それがどういう形になっていくのかということから、ここに記載されたような内容が、だんだん見えてきた。 ・システムの導入によって、私たちの繋がりが、非常に広く繋がるというところを構築していきたい、それから一人一人の「主体」、実際にボランティアをやっている方々やそのグループの人たちがそういうところを通じて広がりが増えてくるという願いを込めて、内容をまとめている。 ・文字化すると、堅苦しい言葉になりがちなため、できるだけわかりやすい、若い世

	<p>代から高齢者の世代まで届けられるような言葉もいろいろ模索をしながら表現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ細かいところでたくさん意見があると思うが、とりあえず現段階ではこの形でまとまったので、ご理解をしていただきたい。
<p>会 長</p>	<p>部会長ありがとうございました。あと少し他の委員の方でも、ご説明とか、補足とか、今の部会長の報告を踏まえながらあればいただきたいと思います。いかがですか。</p>
<p>委 員</p>	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規運営方法の主軸ということでその下の既存事業の整備というやはり中学・高校・大学、板橋区内大学・学校たくさんありますので、そこを活用することが重要。 ・地域課題の解決に向けて区の主管課が地域振興課だけでなく、ボランティア推進にいろいろな主管課と、連携をしてもらいたい。 ・周知の考え方から、デジタルとか紙による周知、デジタルだけの周知でなく紙媒体も大事ではないか。
<p>会 長</p>	<p>他には委員の方でございませうか。ありがとうございます。私もお聞きして、プラットフォームとかご提案なんかを当初させていただいて、本当に皆さんがやっぱり実績を持たれて積み上げられてきているものが、すごくさっき部会長からもご意見もありましたが、実際の事例も伴いながら考えていかれる、言葉として新たなものが加わってはきていますけれど、そういったものをもうすでにやはり区の取り組みの中でやられてきたと。板橋区の実績あってこの整理に至り、発展的にとらえることができてるんじゃないかなというふうに思います。やっぱり大事なところは区全体という部分と、先ほど事務局の説明あったようにブロックごと、やっぱりそれぞれの地域性、多分小学校・中学校区、学校区なんかの段階でも相当やっぱり地域性の違いっていうのがあると思うんですね。そうしたものは、区全体でとらえる枠と、あと区のブロックごとというところで、とらえるもの、これを両方踏まえながら見ていくという、そういった形でボランティア活動の推進を図っていくという趣旨は、すごく大事だと思います。ちょうどまた2030年のSDGsに向けて、板橋区ではそれに向けての考え方を示していますので、そうしたところと合わせていく上で、やっぱりボランティアな取り組みを進める中で、一人一人が豊かに生きられるような社会をつくっていく。そうしたものに取り組むところでボランティアがどれだけ生かせるかということ、これからのビジョンも含めて、こうした部会でのところで示していただいた取り組みを具体的に反映していくことがすごく大事になると思います。そして進める部分としてもキーワードとしてそのプラットフォームということで、従来からも連携や協働ということがなされて、板橋区のボランティアセンターは、各領域のところで協働に運営される、そこに行政も噛みながら関わるというところで展開をしてきたわけですけど、それをまた新規として、新たにプラットフォーム機能というものを取り入れながら、家庭・地域・学校、そして企業、そうしたものでまた学校も、小学校、中学校、高校、大学、大学もいろいろな学校あります。そうしたところと、さらにこう広げていくという視点でこれもすごく大事だと思います。それをいかにプラットフォーム機能を使って、ボランティアセンターが、先ほど事務局からの報告にあったように、中間支援組織として、そういったものを繋いだりする役割を持ちながら、それぞれが主体として機能していく。そこがその主体として機能していくときに、いろんな方たちと関わることによって、よりバージョンアップするとか、その取り組めることが広がっていきえるように進めるという視点を持って、いらっしゃることがすごく重要だなと思います。そういう意味では、共創、「ともにつくる」というところでの共創で、新たな創造というところのインキュベーション機能、これはいろんな諸団体が関わると、新たな発想って出てきますので、少し例示なんかもしていただいています、そうしたものがどれだけ豊かに進められるようになるかっていうのが、とてもこれからの</p>

	<p>2030年に向けて、社会状況って今厳しくはなっていますが、だからこそ、区民の方たちと、ボランティアというものを通じながら、この区を豊かにしていくということが、この方針の中からも見えてきますし、それをビジョンとしてどう打ち出すかということが、すごく重要になってくるということを改めて認識させていただくことができました。ありがとうございます。それではこの第3、4の部会の部分を確認をしてさせていただいたところですけど、この専門部会の結果について、他の部会以外の委員の皆さんもいらっしゃいますので、確認をできればというふうに思いますが、何か確認したいこと等ございますか。今の事務局の説明、そして専門部会の方たちからの説明とちょっと私のほうでそれを受けた形で少しまとめさせていただきましたが、その他何か確認あれば。</p>
委員	<p>(委員質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営に経費がかかる割合で社会的資源っていうところのもの・金の「金」のところ <p>で、経費の部分に一切触れてないので伺いたい。</p>
事務局	<p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費をどうしていくかについて、システムの部分については、ボランティアセンターとIT推進課と実際どう運用していくかの相談をしていますが、そのほか細かい経費まだ検討しきれていない状況です。
会長	<p>推進協議会のほうでは一つの考え方、その枠組みを作ってそれをビジョンとして、願う形になりますけれど、それを運営するにはさっきご質問あったように、人・もの・金というところで、具体的に運用するということでは、実際にいろんなものが必要になりますから、そういったものの予算をどうするかっていうのは、その中で具体化していく中で、きちっととらえていただくという理解でよろしいでしょうか。他に確認が必要な部分でございませうでしょうか。よろしいですか。では、今後のスケジュールと課題について、少し事務局のほうから説明をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>(3) ビジョン骨子(案)について (事務局から資料5-3、2今後のスケジュール(案)について説明)</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。今説明のあった通りですけど、次回の協議会の後にはこのビジョンの内容を中間報告書として作成をして、区議会の委員会において説明をしていただく。また区民の方からも意見募集をしてパブリックコメントを受けていくということです。そして、それを迎えるにあたって、専門部会で先ほど整理をしていただいたことを踏まえながら、ビジョンの素案の作成を下命していくということで、これから少し仮ビジョン、骨子案を作成することになっていきますので、このビジョン骨子案について事務局の説明の方をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局から資料5-3について説明)</p>
会長	<p>大きく柱としては3章構造で資料編というものをつけて作っていくという予定であるということですけど、まずはこの第1章のビジョンの作成にあたって、並びに第2章、ビジョンの基本的な考え方について、この項目の記載内容について、委員の皆様からご意見がありましたらお聞かせいただきたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。先ほどの専門部会での協議も踏まえながら、第3章以降もそれらが大きく反映されていくものと思いますが、いかがですか。</p>

委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動というのは、究極には災害時に強い体制を築くことが最も重要。 ・小学校や中学校・高校の生徒がボランティア活動をしたら、その活動を証明するような信頼のあるもの発行ができることも、このプラットフォームの中に設けていただくと、学生が参加しやすい環境ができるのではないかと。 <p>(確認事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りとかが町の清掃とかがあったときにちょっと地元の自治会役員の人たちに生徒が何人か手伝いに来て、ボランティア活動すると、内申中にプラス点がつくという話をされて、何かそういうのを板橋の小中学校でもやっているのか確認したい。 <p>(委員からの回答)</p> <p>小学校は特になが、中学校はあると聞いた。それ目的でやる子もいるそうです。</p> <p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の都立高校でもボランティア部が、板橋区の総合防災訓練参加していただいた。それから、地域のお祭りで神輿かついだら町会長名で感謝状出したり、それは今度推薦入学に役立てるようなことをちょっと聞いた。 ・生徒がボランティアに入ったときは、フォーマットで書類を持ってきて、そちらに判子押ささせていただいた。共通理解できて、実施できている。
会長	<p>他はいかがですか。社会福祉協議会さんなんかは、もともとボランティア推進校とか、福祉教育ボランティア学習ということで、学校教育に推進をされてたと思いますが、そういった現状はいかがでしょうか。</p>
ボラセン所長	<p>毎年やっています夏のボランティア体験。板橋区では、去年は500人以上参加をいただいております。その中で、やはり証明書をくださいというお子さんまたはその保護者がいらっしゃいます。板橋の場合は、積極的に出しています。都内のボランティアセンターの中でも、証明書のために、ボランティアっていうのはそぐわないという考えのセンターがあります。板橋のようなセンターは比較的多くなっているのかなという印象です。子供たちが何か活動することによって、公的なところから証明をもらって活動したっていう体験を与えるということが今後の子供たちの経験だったり非常に大事なところかなと思います。実際に証明書を出した生徒さんが、来年も引き続き参加してくれる子供は多いですから、出していきたく思います。ただ一つ、このボランティアセンターのあり方を話ししてますんで。例えばその500人から、証明書をくださいと言った場合には、ものすごい事務量になるのでできるだけ簡素化できるように、以前は郵送代ということで100円徴収して、それで印鑑を押して送っていたんですが。それは大変なので、もう今年は、ホームページ上に、証明書欲しい方はそれを自分で印刷して活動先に持って行って、証明をもらったらボランティアセンターからPDFで証明書送るようなそういったことも考えています。</p>
会長	<p>ボランティア活動の推進事業がまだ厚労省で予算化されたときに、学校なんかの連絡協議会なんかを社協さん作ったりしたところもありますが、板橋区ではそういう小中高校とか、連絡会みたいなものはあるんでしょうか。</p>
ボラセン所長	<p>一旦NPOさんが変わってますので、そこで一旦、ボランティア活動推進校というものは途切れている形だというふうに聞いています。</p>
会長	<p>学校の当時1970年代にそういった推進校の養成をということで、文部省ではなくて、厚生省の方で、全社協に予算化をして、ボランティア活動とか福祉の関係推進してくださいって学校指定をしてきたんですね。そういうのを全校指定したりするとこ</p>

ろは、市の中に連絡協議会を作って連絡会を作って小中高のその担当の先生たち、だから、ある意味組織化を学内に位置付けしてもらってという、やや運動的な活動の部分で、先生方のところですね、各委員会あって、ボランティア担当する人がいるところといないところがあったりしますし、所管するところが渉外担当みたいになってると、その人が全部いって、背負ってしまう。ちょっと仕組みを作るって働き方されてた時代もしそういう既存があれば、先ほど言ったような部分は、そこを通じてやれることできると思うんですが、ちょっと今、ないようですから、場合によってはそういった学校の方はもう先生方、ご承知のところと思います。大学も含めて、地域に関わっていく、大きく学校教育の目標として位置付けられていますので、そしてPBLって問題解決型の学習、地域の中でできるように、それを学歴の中に、発展的に展開する。ただ大学も、もちろん先生の小中高でまた、そういったものを、心のバリアフリーとか障害とかいろんなものが指導要領に引き続いていて、多分ここは、この進めるところでは、区教委さんにもご理解をいただいて、そうでないと学校の先生たちも、こちらの部局より、教育委員会さんの方の招集の方が動きやすいものもある。少しそういうのは、プラットフォームでやっていくときに、区の教育委員会ときちっとそれに関する部分があるので、そこに上手に合わせていって、協働することを考えていかれるのが、ちょっと今の発言がありましたので、私もそこが専門の1人でもあるので発言させていただきましたが、そういったものと、機能させていくと、求められてるビジョンとしてはその方向性についてますから。未来を担う子どもたちがそういうのを理解して、体験的に理解して、ぜひちょっと参考にしてもらえればと思います。また、専門部会のところでも、その辺の区教委の方たちなんかの担当の指導の方がいらっしゃるので。

委員

(委員意見抜粋)

- ・主体的教育で、自分たちが発見して自分たちでやっていくというのを取り組んでいる時代が変わってきているということもあって、ボランティア部ってというのは、子供たちから言ってきたことを、もう、すぐに認めて活動してもらってる。
- ・教育委員会と連携して、特にボランティアセンターも関わっているのであればシステム化ができるようになると思う。
- ・ビジョンの中に、備えとしての災害ボランティア、災害ボランティアのあり方の育成とか養成とかっていう形で、触れといたほうがいいのでは。
- ・発信力のある小中学生や高校生がボランティア活動して、体験したっていうのを、ご家庭で話していただくっていうのが、一番大事なのかなと思う。
- ・前回だと、まず四者協働でやっていき将来的には自主的な運営を目指す。だが今回それは転換したと思うので、どうかわっているのかということをお言葉としてほしい。
- ・以前はこうだったが、今回はまた違った目線で私たちは取り組んでいますというところは、理解してもらう必要があると思う。

会長

進行管理というところで、その展開を具体的にやってどう評価するか。そこまでも入れて、2030年までの目途を表していく、専門部会へ今のご意見を少し生かしていただきながら、理念的なものから、より具体的なこれは今施策が、全体的にそうやって進んできていますので、従来理念で進んでいた計画もきちっと、それをどう機能させ、実際が変わってきていますので、今回、そこにも入っていくような柱になった。より機能できる内容になっているかと思います。その辺の事務局の方も今のご意見を踏まえていただければと思います。この部会の下命事項及び素案の中に反映していただきたいと思いますので、そうした理解のところでもよろしいでしょうか。この議題としましては、三つ整えさせていただきましたので、これから今の議論を踏まえて専門部会で、下命事項の確認を行っていきたいと思いますので、その内容について

	<p>確認のほうをさせていただければと思いますが。それぞれ素案についての検討ということと、今のところで記されたその他というところ、これについて、今の下命する内容についても検討内容としては、この1、2、3、特にやっぱり3のところで今皆様からいろんなご意見をいただきましたし、大分ボリュームが多くなってしまいかと思いますので、2回に分けて部会の開催を進めていただければと考えます。これにつきまして、委員の皆様からはいかがでしょうか。専門部会の方で今日の動向踏まえていただきながら、事務局の方で少し素案整理をしてもらって、たたき台を作っていただいて皆さんのところで2回にわたって、協議をいただき、整理をしていきたい。という考え方についてご意見等ございましたらお願いしたいと思います。よろしいですか。部会長でよろしいですかね。概ね、特にご意見はないというところで。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンのところで、参画する企業やボランティア団体とボランティアセンターの関わり方、基本的なこの関係性っていうのあり方を、示してもらえるといいなというふうに思います。
会長	<p>ボラセンが中間支援組織として機能しながら、いろいろな企業も入って団体、機関とか、いろんなところが入ってくる。あと学校等様々なものが入っているところで、共創していくっていうことを、もう少し見え方を具体的にしないと、そのかわり映えとか、どう進められるのか見えにくいと感じられているのかなと思いますが、多分その辺が、骨子を落とし込んでいく上での課題にはなると思います。あと実務運営していくところではまたそれは次の段階のレベルに入ってしまうので、実務運営ここでは、大まかな枠組みを作って、一つの方針を示すのが、私たち委員に任されてる部分で、委員の皆さんは具体的に活動されているので、特に専門部会では、しっかりやっぱりそういった足元に地を付けた取り組みから、検証していただいて、それを少し抽象化していただく努力をさせていただいていると思います。ただそれは多分そこを示して、具体的にどう運営するかっていうのが、次の段階のところでは具体化していただくことになると思います。ビジョンを生かしていくところで必要な要素は、ある程度示していくことは、その次の段階で、絵では書いてみたものの、またそれがそのままってならないようにするためには必要。多分それをどこまで、この骨子の中にビジョンとして落とし込めるかっていうのは、ちょっとまた部会の方で揉んでいただきながら、次の皆さんと集まったところでその内容でいけるかということになっていくと思います。またそこを進めていく上では、区議会や区民の方からの声も、そういう意味では区民の方からの声で、これまでの運営をさせていただいてる方からのいろんなご意見も出てくるでしょうから。その辺をどう反映していくかっていうことは、重ねて出てくる場所だと思いますので、この間、専門部会の皆さんにやっていただくことと、また、そういったやりとりをしたところで出てきたもの、ここの協議会のところでどう整備するかというところが、次の段になります。与えていただいた議題としては、すべて協議をいたしましたので、これを次回までにまとめていただいくということになりますけれど。基本としましては、先ほどのこの議題で進めてきた進め方にのっとりながら、今専門部会の検討結果を踏まえて確認をしてきたところをもとに、このビジョン骨子を作成していくということで、まずは部会のところでもんでいただくところを、事務局の方で整理をもらった上で専門部会の方は、これから2回開催していただいて、ご協議いただき、それをもとに、また皆さんにご検討いただきますが、よろしいでしょうか。一度、事務局の方に戻りたいというふうに思います。</p>
事務局	<p>事務局連絡させていただきます。再度スケジュールの確認をさせていただければと思います。第6回のボランティア活動推進協議会、8月8日の火曜日、14時から今度は場所が板橋区役所4階の災害対策室A・B南館にございます。で開催を予定しております。</p>

	<p>詳細につきましては、後日またご連絡をさせていただく予定になっております。その他開催通知、事前配布資料等についても、改めてこんなご案内をさせていただきたいと思っております。その他の協議会、専門部会のスケジュールをお伝えします。第5回の専門部会が6月9日の金曜日、10時から本日より同じこのグリーンホール703会議室でございます。第6回の専門部会は、7月6日の木曜日、14時から、場所が変わりまして区役所南館4階の災害対策本部室。次の第7回の専門部会は、11月7日の火曜日、14時から、第7回協議会は12月19日火曜日14時から開催。第7回の専門部会と協議会につきましては、開催日は決まっておりますが、会場等を詳細は決まっておりませんので、決まり次第ご報告をすぐさせていただきたいと思っております。協議会の委員の皆様の中で、あと、専門部会の傍聴希望される場合は事務局までご連絡をいただければと思います。事務局から以上です。</p>
会 長	他に皆さんの方から何か情報提供とかありますでしょうか。
委 員	<p>(委員質問)</p> <p>今後、方向性のところで学校との連携・協働についてですが、区の方で毎年青少年表彰っていうのをやっているが、それとは別なのか。</p> <p>(回答)</p> <p>学校に全く18歳以下の方が、対象は全校なり、各種スポーツ大会等の成績の優秀者であったりというふうな方について、表彰していきましようというふうなお話で、全校の部類かなというふうに思います。ただ、それが冒頭今回の本日出てきました内申等の評価に当たるかどうかについてはちょっと次回までに事務局に調べてもらってですね。またご報告っていうことをやってもらえればありがたいなと思います。</p>
ボラセン所 長	<p>今日机上配付させていただきました。2年に1度ですね、ボランティアセンターのほうで発行しております、ボランティア・市民活動ガイドが新しくできましたので、今日皆様、お持ち帰りいただければと思います。これは、いたばし総合ボランティアセンターのイメージを一新するような、表紙で「ねこびと」というキャラクターなんですけれども、この猫というイメージがもう家でゴロゴロしている。なんですけれども、ちょっと気になることがあるとあとは、好きになるとですね、非常に猫っていうのは、真剣に取り組む。そういった意味も含めてですね、区内で活動してるデザイン会社さんに表紙を作っていただきました。区内88団体、7分野の分野に分けてですね、こちらの方区内で活動する団体の紹介をしておりますインタビュー記事も全部職員ではなくて、学生さんに協力していただいて、原稿を作っていただいてこういったものも活用しながらプラットフォームに向けてですね動いています。</p>
委 員	<p>(委員意見抜粋)</p> <p>・個人でボランティアやりたいっていうものを、どうやっていくかっていうのをぜひ考えてほしい。</p>
会 長	個別ニーズへの対応だと今現在ボラセンでは個別ニーズをどのように対応されているんですか。
ボラセン所 長	<p>ボランティアセンターのほうで相談を受けてですね、対応はしています。ただ、5人いる職員で例えば一つの相談に対して、状況を把握して、またボランティアの方を連絡して何人かにマッチングしていく中で、相当な時間と労力っていうのはかかります。これを板橋の総合ボランティアセンターの中で、どういうふうに位置付けていく</p>

	<p>かというのは、プラットフォーム化していく中で、そういった個人の個別のニーズが埋もれてしまう恐れがあります。小学校の中で、黙食になったところで、発達障害の生徒さんがどうしても給食のときに、立ってしまう、そういったときにですね、お母さんのほうから相談がありました。学生さんのサークルにみんなで回って、順番で関わってもらうことになったんですけれども、それに対しても教育委員会だったり、スクールソーシャルワーカーや主任児童委員さんだったりあとは校長先生そういった方との連絡調整で、すごくやっぱり必要な部分ですけども、そこをやらなくなったときに、どこがやるっていうのがその辺も考えていただければ、ありがたいなと思います。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の方にやる気があっても、その組織がですね多岐にわたってしまうと複雑になってしまうとその間に、学生の方のやる気がそがれてしまうので、プラットフォームの中で簡単な乗り換えができるようなボランティアの対応っていうのが求められるんだろうと思う。
会長	<p>ここでは中間支援組織としてボランティアセンターってありましたから、まずは団体と団体を調整する機能を新規でやって、そうした団体をいかに知ってるかってそういうの結構ありますから、それをどれだけ中間支援組織として関係を持っているか、その個別ニーズが来たときに、大学というボランティアセンター、それは僕らの大学ボランティアセンターのそういった面、そういったところに重ねてその個別ニーズに、そこを機関として、教育委員会やいろんなものつなぐ部分でやっぱり中間支援組織としてのプラットフォーム機能を出して、教育委員会にも乗っかって、風通しを良くする団体がキーになるで、具体的にはそのNPO団体さんに呼ばれた場合、何かあったときにはそれぞれの協力をして、多分そこをまず中間支援組織のコーディネーション・マネジメントを、どれだけボランティアセンターが担保できるようになるか、それにやっぱり専門人材としてどう置くかあとは機能させる、ランチ機能で、それぞれのところにコーディネーターさんがいて、そこまでをどう機能できるかどうかそれはさっきのあの金・もの部分もあるし、あとはもうある機能として持ってらっしゃる団体さんと一緒にやることによってそこは従来持っているものを生かしていく。その辺はどう具体化するか、ある程度想定しながら、ここまでの専門部会で具体的に整理されてきているので。ただやっぱりそれを落とし込んできちっと実効性あるものにするとところは、やっぱり次の実務レベルそれはボラセンとしてどうプラットフォームとジョイントしていくかっていう、その新たなジョイントをどう仕掛けていくかっていうところでは、そこの方たちに、それをどこが支えるのか、それは推進協議会はまずここまでの役割で僕らも皆さんも、委員として委託をあとはそのセンター運営のところの形で担保していくのか、こういった推進協議会みたいなものが、その評価をどこがするのか。その辺どうするかは少しちょっと次の専門委員会で、見直しを立てるということが課題になる。</p>
委員	<p>(委員意見抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターのボランティアみたいなことについては少しは考える必要があると思った。
会長	<p>プロボノ、そういうのは専門職の協力活動をプロボノって言い方をしたりしますけど。場合によってはもうボランティアするものもありますし、だからその辺っていうのは、どういうふうに整理していくかで、機能することは可能ではありますね。ただ板橋区ぐらいの規模になると大きいですから、そこをどうするかっていうのはあるし、だ</p>

	<p>からこそ、今回の部会の案にあるようなランチをつくっていくのも、人が必要になってくるし、場所が必要になりますから、それは簡単なことでない、多分今のセンターでも、運営の推進するところでは、母体として幾つもの組織があるわけですね。社協組織にも、運営の評議員会、理事会がありますし、他の団体と連携してるところでそれがどの程度現実機能しているか。そうするとその母体になる方たちがどれだけ実務として尽力できるか、その辺のすり合わせとか、ただそこをどう具体化するのかっていうのは、まずはちょっと専門部会で立てた柱をどうするのかっていうところで想定をさせていただいて、そこでまたこう提案していただいたところで、皆さんの認識でこれならそういう形が機能できるかなとか。具体的にすることは、何をすることやっぱりちゃんとしないといけないというふうになるかもしれない。今のところやはり具体的に運営するっていうところの次の段階ではあると思いますけれど、少しその辺を、部会のほうで見通しを立てる、少し事務局で今の意見を少し受けとめていただいて、専門部会でどういうふうに整理をするか、事務局の方、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは先ほど事務局のほうで確認あった通り、進めていただくことになります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。それでは第5回の協議会を終了します。皆さんありがとうございました。お疲れ様でした。</p>
所 管 課	区民文化部地域振興課 地域振興係 (電話 3579—2163)